

受講コース及び主要単元の内容一覧

各単元の内容を分かりやすくご案内しております。受講コースを選択する際、ご参照ください。

コース名/Course	領域名/Area	単元名/Module Name	内容説明	英語版/ English version
神戸大学教員等コース (生命医科学系) Kobe University Course (Medical and Life Science)	責任ある研究行為 基盤編(RCR生命医科学系) Responsible Conduct of Research (RCR) For Medical and Life Science	責任ある研究者の行為について Responsible Conduct of Research	研究者は、研究倫理・研究公正の考え方に従って研究を実施し、その成果をもって社会に貢献する。本単元では、そうした研究活動を支える各種の法令・指針の生い立ちを知って、その道筋を学ぶ。	○
		研究における不正行為 Research Misconduct	研究分野でのミスコンダクトの中でも捏造・改ざん・盗用という行為は、研究の真実性を損ない、社会から研究者への信頼を著しく失わせる行為である。本単元ではそうしたミスコンダクトについての理解を深め、これらを回避し、適切な成果発表をするための考え方について学ぶ。	○
		データの扱い Data Handling	研究上のミスコンダクトは、必ずしも意識的に生じるものではない。本単元では研究者に生じがちな偏見や思い込みを避ける上での基本的な研究上の手順を学ぶ。	○
		共同研究のルール Rules for Collaborative Research	今日の研究は規模と質を確保する上で、共同研究が基本となりつつある。本単元では共同研究を適切に進めるための考え方と、知的財産権等、共同研究成果に伴って生じやすい問題を避けるための基本事項を学ぶ。	○
		利益相反 Conflicts of Interest	利益相反の存在は研究の結論にバイアスをかけることもある。したがって研究者は自身の利益相反を適切に開示し、研究機関はこれを管理することが重要である。本単元では利益相反の問題について、基本に立ち返って解説する。	○
		オーサiership Authorship	「著者」になることは、名誉ばかりでなく、職、地位、研究費を得る上で重要な意味がある。本単元では「著者」をめぐる権利と責務の国際的基準を学び、国際発表に備える。	○
		盗用と見なされる行為 What Is Plagiarism?	研究における「盗用」は、自身の業績を不当に膨らませる行為である。本単元では他の研究者の研究成果への敬意を払い、科学的知見を健全に活用する方法を解説する。	○
神戸大学教員等コース (理工系) Kobe University Course (Engineering)	安全保障貿易管理（輸出管理） 教材(SEC) Security Export Control (SEC)	大学等における安全保障貿易管理 Security Export Control at Universities and Research Institutions	国際的な学術交流が進展し共同研究の機会や留学生の受入れが拡大する中、国内の大学や研究機関が保有する機微技術が流出するリスクが増加しており、大学等においても安全保障貿易管理に厳格に取り組むことが必要となっている。本単元では、個々の研究者が理解しておくべき規制や具体的な手続きについて学ぶ。	○
	責任ある研究行為 基盤編(RCR共通単元) Responsible Conduct of Research (RCR)	研究インテグリティとその対応 Research Integrity and Research Security	研究の国際化・オープン化に伴い、研究活動におけるリスクも多様化しており、政府からは「研究インテグリティの確保」という形で関連する問題が議論されている。本単元では、研究インテグリティという規範のもと、研究者・研究機関として軍事、安全保障、そして知的財産に関係するリスクをどのように軽減していくかについて、その基本的な考え方と国内外の動向について学ぶ。（教材紹介リーフレットはこちら）	○
	責任ある研究行為 (RCR理工系) Responsible Conduct of Research (RCR) For Engineering	研究不正 Research Misconduct	研究者は研究の過程で、意図的・非意図的に、不正とみなされる行為をしてしまうことがあるが、それを防ぐためには、研究活動における不正行為についての正しい理解が必要である。本教材はそのための基礎的な知識を提供する。教材は、研究に関する不正行為の定義から始まり、日米の各学協会が研究不正について定めているガイドラインを例示し、不正行為を行った研究者に対する措置について解説している。研究不正行為に対する具体的な取り組みを概念的な面からも制度的な面からも学ぶことができる。	○
		工学研究におけるデータの管理上の倫理問題 Ethical Issues in the Management of Data in Engineering Research	研究に携わるすべての人にとって、研究の過程で生じる様々なデータを適切に取扱うことは不可欠である。本単元では、データの収集、管理、公開等をめぐる基本事項を学ぶ。	○
		理工学分野における利益相反 Conflict of Interest in Engineering Research	本単元では、理工学分野の研究における利益相反を検討する。基本的な概念の解説、利益相反が惹き起こする深刻な倫理問題、そして相反する利益を調整するための基本的な対策と手順の説明から始まり、この問題をより深く理解するための各種の補助材料を紹介する。これらの学習によって、研究者としての責務の遂行と相反するような要因を予期し、その状況を認識し、それに対応できるようになることを目指す。	○
神戸大学教員等コース (理工系) Kobe University Course (Engineering)	責任ある研究行為 (RCR理工系) Responsible Conduct of Research (RCR) For Engineering	責任あるオーサiership Responsible Authorship	研究活動において、他の研究者の研究に言及し、論文の共著者として名前を挙げることは、研究者が互いの研究成果に敬意を払っていることを意味する。そのため、不適切な方法で論文共著者としての資格を与えると、当該研究に対する信頼性を著しく損なうことになる。つまり、オーサiershipには、責任が伴うのである。この点に注目しつつ、本教材ではオーサiershipの定義から始まり、学協会におけるガイドライン、不適切なオーサiershipの紹介を経て、分野毎に異なるオーサiershipの考え方を理解することができる。	○

コース名/Course	領域名/Area	単元名/Module Name	内容説明	英語版/ English version
神戸大学教員等コース (理工系) Kobe University Course (Engineering)	責任ある研究行為 (RCR理工系) Responsible Conduct of Research (RCR) For Engineering	理工学研究領域の論文発表とピア・レビュー Ethical Issues in the Peer Review and Publication of Engineering Research	本単元では、科学研究の成果を公表するための基本的な方法である論文発表と、論文の質を保証するためのピア・レビューという制度について学ぶ。近年、研究者としての能力は業績数と被引用数によって評価される傾向が強く、限られた研究時間の成果を基に、より多くの論文を発表したくなるものである。しかし、だからといって不適切な方法で論文を発表することは、研究者に不必要な査読や追試を強いることになり、結果として科学の進展を阻害することになる。こうした事態を未然に防ぐためにも、本教材のテーマである、論文発表とピア・レビューの仕組みについて適切に理解しておくことが大事である。	○
		理工学分野における共同研究 Collaborative Research in Engineering Fields	本単元では、近年の理工学分野で常識的なスタイルともなっている共同研究について学ぶ。たとえば、大学の基礎研究の成果を応用して企業が製品を作成したり、環境問題といった現代の社会的問題へ取り組むためには、大学等での学際研究や産学連携を通じて他分野・多分野の研究者が協力して研究活動に動しむ必要がある。しかし、分野毎の研究スタイルの違いや、研究の成果（論文、知的財産権等）の取り扱いの違いが、後に問題を引き起こすこともある。そうした問題を未然に防ぐためには、どんなことに気をつけたらよいのか、本教材を通して学ぶことができる。	○
		研究者・技術者の社会的責任と告発 Whistleblowing and the Obligation of Researchers and Engineers to Protect the Public	本単元では、理工学系の研究者が社会において果たすべき役割とその責任について学ぶ。理工学研究の成果が社会に与える影響力の大きさは説明するまでもなく、研究者は自らの研究に責任を持つ必要がある。さらに、研究上の不正を見聞きした場合には、当該分野の知識と経験を持った研究者たちが自律的にそれに対処する必要がある。本教材では告発という行為の正の側面と負の側面を具体例を用いながら説明し、この行為について注意すべき諸点を学ぶことができる。	○
	安全保障貿易管理（輸出管理） 教材(SEC) Security Export Control (SEC)	大学等における安全保障貿易管理 Security Export Control at Universities and Research Institutions	国際的な学術交流が進展し共同研究の機会や留学生の受入れが拡大する中、国内の大学や研究機関が保有する機微技術が流出するリスクが増加しており、大学等においても安全保障貿易管理に厳格に取り組むことが必要となっている。本単元では、個々の研究者が理解しておくべき規制や具体的な手続きについて学ぶ。	○
	責任ある研究行為 基盤編(RCR共通単元) Responsible Conduct of Research (RCR)	研究インテグリティとその対応 Research Integrity and Research Security	研究の国際化・オープン化に伴い、研究活動におけるリスクも多様化しており、政府からは「研究インテグリティの確保」という形で関連する問題が議論されている。本単元では、研究インテグリティという規範のもと、研究者・研究機関として軍事、安全保障、そして知的財産に関係するリスクをどのように軽減していくかについて、その基本的な考え方と国内外の動向について学ぶ。（教材紹介リーフレットはこちら）	○
神戸大学教員等コース (人文社会系) Kobe University Course (Humanities and Social Sciences)	責任ある研究行為 (RCR人文系) Responsible Conduct of Research (RCR) For Humanities	研究活動における不正行為 Misconduct in Research Activity	研究活動における不正行為について、捏造・改ざん・盗用の定義やそれ以外の不正行為について、昨今の事例の紹介を通して説明し、研究者が実際に不正行為に直面した際に取るべき行動である「告発」についても学習する。	○
		人文学・社会科学分野における盗用 Plagiarism in the Humanities and Social Sciences	研究活動における不正行為において、最も頻繁に取り上げられるのが盗用である。研究成果にあらぬ疑いがかけられないように、人文系の研究者が論文等を執筆する際に求められる引用や要約の作法について学ぶ。	○
		共同研究とオーサiership Collaborative Research and Authorship	昨今、人文系の分野においても大型研究費による共同研究が活発になっている。多分野で研究を実施する共同研究において注意すべき、オーサiershipやデータの扱いの問題について学習する。	○
		ピア・レビューと利益相反 Peer Review and Conflicts of Interest	研究の質を確保するための、研究者同士の共同作業が論文のピア・レビュー（査読）である。査読付き学術雑誌に論文を投稿する、もしくは、ピア・レビューを引き受ける場合に注意しておくべき事項を学習する。	○
	人文学・社会科学と研究の公正性 (IHS) Integrity for Humanities and Social sciences research (IHS)	人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係 The Relationship between Research Quality and Research Integrity in the Humanities and Social Sciences	人文学・社会科学における研究倫理と研究公正の問題を明示化し、これらに注意することが研究の質を高めることを学ぶ。	○
		人文学・社会科学の学問特性と研究不正 Academic Characteristics of the Humanities and Social Sciences and Research Misconduct	人文学・社会科学系の研究活動の実態に接近し、研究不正行為の根がどこにあるのかを探っていく。	○
	安全保障貿易管理（輸出管理） 教材(SEC) Security Export Control (SEC)	大学等における安全保障貿易管理 Security Export Control at Universities and Research Institutions	国際的な学術交流が進展し共同研究の機会や留学生の受入れが拡大する中、国内の大学や研究機関が保有する機微技術が流出するリスクが増加しており、大学等においても安全保障貿易管理に厳格に取り組むことが必要となっている。本単元では、個々の研究者が理解しておくべき規制や具体的な手続きについて学ぶ。	○
	責任ある研究行為 基盤編(RCR共通単元) Responsible Conduct of Research (RCR)	研究インテグリティとその対応 Research Integrity and Research Security	研究の国際化・オープン化に伴い、研究活動におけるリスクも多様化しており、政府からは「研究インテグリティの確保」という形で関連する問題が議論されている。本単元では、研究インテグリティという規範のもと、研究者・研究機関として軍事、安全保障、そして知的財産に関係するリスクをどのように軽減していくかについて、その基本的な考え方と国内外の動向について学ぶ。（教材紹介リーフレットはこちら）	○